

近江国一之宮

建部大社

Takebetaisha



日本武尊

yamatotakerunomikoto



御由緒【官幣大社】

景行天皇四十六年神勅により、日本武尊の御妃 布多遲比売命が神崎郡建部の郷に、日本武尊の神霊を奉斎されたのが当社の始まりとされています。

その後、天武天皇（白鳳四年）今から凡そ一三〇〇年前に近江国府の所在地であった瀬田の地に遷し祀られ、近江國の一之宮と定められました。歴朝をはじめ武門武将からの御尊信篤く、なかでも平家に捕われた源頼朝公が伊豆へと向かう途中、当社に立ち寄り源氏再興を祈願されたと伝われます。以来、出世開運・除災厄除の神と崇敬される所以です。

御祭神

ほん でん
本殿 日本武尊
やまどたけののみこと

あいどの
相殿 天照皇大神
あまてらすすめおおかみ

ごん でん
権殿 大己貴命
おおなむぢらのみこと

（大国主神）

御祭儀

一月	一日	歳旦祭
	三日	元始祭
二月	三日	節分祭
	四日	護国祭
	十七日	祈年祭
四月	十五日	例大祭
六月	三十一日	夏越大祓
八月	十七日	船幸祭
十月	十二日	早穀祭
十一月	二十三日	新嘗祭
	二十六日	鎮火祭
十二月	三十一日	大祓式・除夜祭

重要文化財

女神像 (平安時代)

日本武尊の御妃とされています。口元を袖で覆い、容易に姿を見せないという神の在り方を暗示されているのか。おしとやかな平安女官の印象が最大の魅力とされています。

宝物殿拝観料二〇〇円

(拝観につきましては事前にご確認ください)



【願い石】

古来より当社に伝わる信仰のひとつ。石に願い事を書き、自宅に持ち帰ります。晴れて願い事が叶えば、お札参りを済ませた後に、願い石を返納します。後日御神前で、祈願成就の報告と家内安全を祈願いたします。



日本銀行兌換券

甲千円紙幣

終戦直後の昭和二十年に日本で初の千円紙幣が発行されました。この紙幣の図柄となったのが日本武尊の肖像画と建部大社です。発行枚数が極めて少なく幻の紙幣とされています。



【菊花石】

天然記念物の菊花石です。健康・長寿のご利益があると伝わります。



【御神水】

境内より湧き出る霊水。毎日多くの方々が水を求め来社されます。



日本武尊



建部大社は、日本武尊を祀る由緒ある神社です。ミコトを祀る社ということで、歴代の朝廷から篤い尊信を受け、また武將たちからも深い崇敬を集めてきました。日本武尊は、記紀(古事記・日本書紀)に登場する英雄です。その数多い偉大な功績をヤマトタケル物語としてイラスト付きでご紹介します。

ヤマトタケルの西征

日本武尊は第十二代景行天皇の御子・小唯命(オウスノミコト)として生まれます。幼少の頃より勇敢で力も強く、父は小唯命に、朝廷に従わない西国の九州「熊襲建兄弟」を征伐するよう命じました。自分の力を試せると大喜びした小唯命は、叔母のヤマトヒメから衣装をお守りに頂くと、短剣を持って出発したのでした。小唯命が九州の熊襲に着くと、さっそく熊襲建兄弟の館を見つけました。しかし館は厳重に警戒されていたため、ある計画を企てます。小唯命は少女のように髪を結い、ヤマトヒメから授かった衣装をまとい、女装をして熊襲の女たちに混じって宴に紛れ込みました。祝宴が進むなか、熊襲兄弟が酔ったのを見計らった小唯命は、懐に忍ばせていた短剣を取り出し熊襲兄弟を討ちました。西国で一番強い熊襲兄弟を討った事から、強者の称号である「タケル」の名をもらい、以後「ヤマトタケル」の名で呼ばれるようになりました。



勝守

勝守

ヤマトタケルと草薙の剣

西国討伐から戻った日本武尊に景行天皇は休む間もなく東国征伐を命じます。途中、伊勢神宮に立ち寄り叔母のヤマトヒメを訪ねます。ヤマトヒメは遠征へ旅立つ日本武尊に、危険に会った時のために、神剣・天叢雲剣と、袋に入った火打具を授けました。そして東へ向かった日本武尊は、尾張国でミヤズヒメという美しい娘に出会います。恋に落ちた日本武尊は、再び大和に帰るときに結婚することを約束して、更に東へと進んでいきました。次に到着した駿河の国では、朝廷に従属する気がない国造が謀を企てていました。「野中の大きな沼に住む荒ぶる神に皆困り果てております」と、日本武尊を野に誘い出し、四方から火を放って騙し討ちにしようとした。退路を断たれた日本武尊は、ヤマトヒメから授かった神剣で草をなぎ払い、火打石で向かい火を放ち野火から脱出します。後に、火で焼いた事からこの地を焼津といい、そして、草をなぎ払った神剣は「草薙の剣」と呼ばれるようになりました。※この草薙の剣は尾張の地に留め置かれ、熱田神宮で祀られています。

開運守

開運守



后・オトタチバナヒメの入水



駿河の国から更に東の浦賀へ入った日本武尊は房総へ船で渡ろうとした。しかし、海が荒れ船を進めることが出来ずにいました。その時同行していた後のひとりオトタチバナヒメが、「私が海に入って海の神を鎮めましょう。御子は任務を立派に果たしてください」といって、自ら荒波に身を投じたのです。すると、たちまち荒れ狂っていた海は静まり、無事に対岸に着くことができました。やがて東国討伐を終えた日本武尊は足柄山の頂上に着いたとき、海を望みながら犠牲になったオトタチバナヒメを偲んで「わが妻よ」と呼びかけます。それから、このあたりは「吾妻」といわれるようになりました。この房総沖を船で進まれた故事に基づき、現在大津三大祭の一つである船幸祭が八月十七日に斎行されています。



御守護守



ヤマトタケルと伊吹山の神



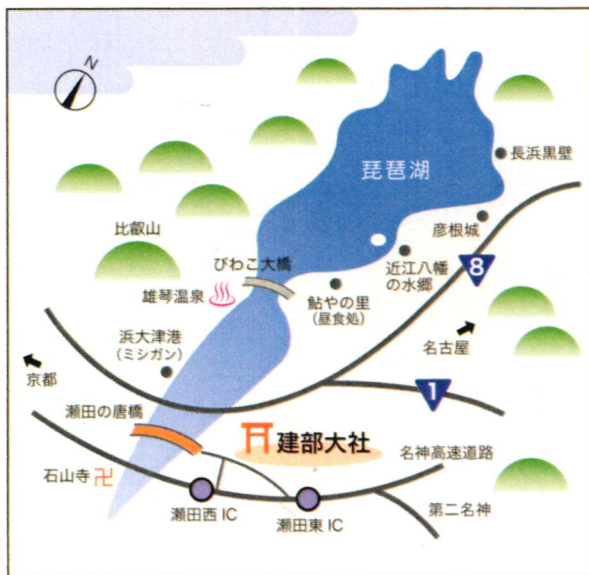
西国に続き東国を平定し、尾張国に戻ってきた日本武尊は、以前結婚の約束をしていたミヤズヒメと結ばれます。しばらくの間は共に過ごしていましたが、伊吹の山に悪い神がいると聞き征伐に向かいます。度重なる勝利に慢心したためか、神剣・草薙の剣をミヤズヒメに預けて向かいました。伊吹の山を登る途中、牛ほどの大きな白い猪に出合い、「これは山の神の使いだな、帰り道で相手になってやろう」と大きな声で威嚇してやり過ごしました。すると突然激しい雨が降り出し、行く手をはばめます。実は白い猪は山の神の使いではなく、山の神そのものであり、日本武尊が威嚇したためその怒りを持ったのです。みぞれに打たれて衰弱した日本武尊は、やっとの思いで山を脱出し、故郷の大和を目指します。養老の地を通るときには「今は歩くこともままならず、足がたぎたぎと軋む」と歎かれました。後にこの野原は多芸野といわれるようになりました。

病氣平癒御守



ヤマトタケルと白鳥伝説

大和を目指し歩き続けた日本武尊は杖をつくほど疲れきっていました。またある村に着くと疲れた足が「三重に曲がり固い餅のようだ」と歎いたことからその地は「三重」といわれるようになりました。更に体調を悪くした日本武尊は、大和への望郷の思いが募っていきます。日本武尊は国忍びの歌を詠みます。「倭は国のまほろばたなづく青垣 山隠れる倭うるはし」そして、愛した妻を懐かしみながら力尽き倒れてしまいました。静かに眠る日本武尊の御陵から白い大きな鳥が天空高く飛び立っていました。日本武尊は白鳥となって恋しい故郷へ帰っていったのです。後にその白鳥が飛んで留まった河内の国の志紀に御陵が作られ「白鳥の御陵」と呼ばれるようになりました。



電車・バスの場合

- ・JRをご利用の場合
JR 琵琶湖線 石山駅下車
JR 石山駅南口
瀬田石山線
瀬田駅ゆき建部大社前下車
野郷原ゆき建部大社前下車
- ・帝産バスをご利用の場合
JR 石山駅南口
龍谷大学ゆき建部大社前下車
牧口ゆき建部大社前下車

自動車の場合

- ・名神高速道路をご利用の場合
大阪方面から 瀬田西 IC より 3分
名古屋方面から 瀬田東 IC から 5分

ルートマップ



瀬田西 ICより



瀬田東 ICより

カーナビ検索は電話番号が便利です。
077-545-0038

近江国一之宮

建部大社

たけべたいしゃ

〒520-2132 滋賀県大津市神領1丁目16-1
TEL 077-545-0038 FAX 077-545-2438

E-mail info@takebetaisha.jp
建部大社 HP <http://takebetaisha.jp/>



旅路守